詩人会議

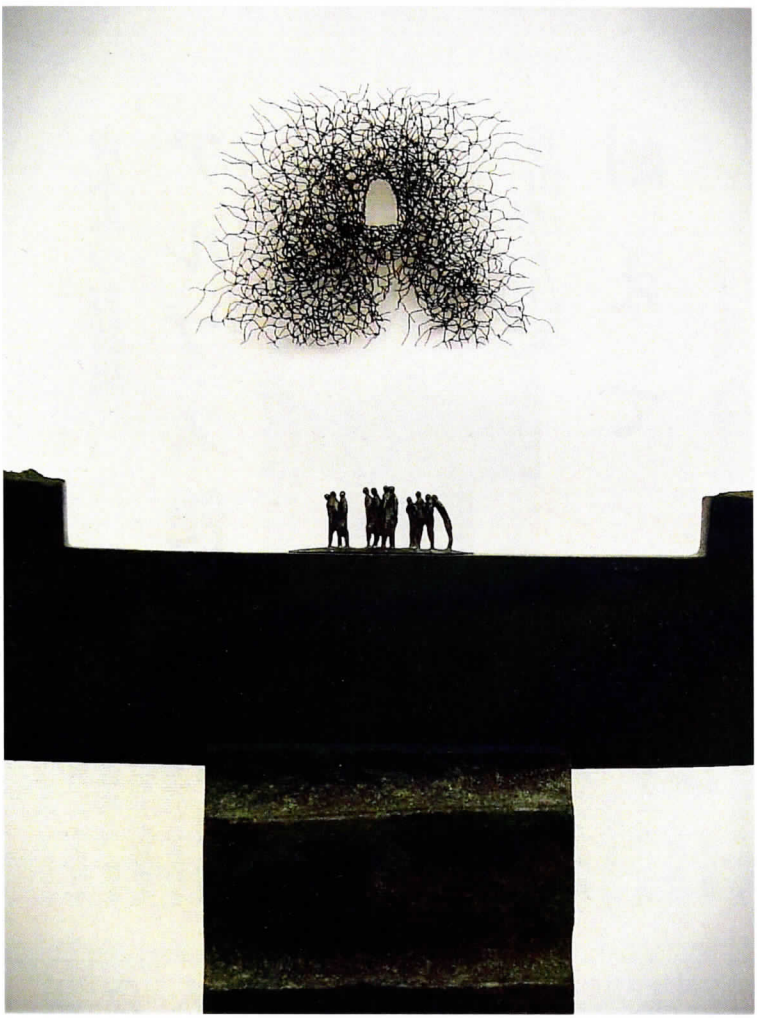
sijin kaigi

3

2023

№726

1963年2月27日第三種郵便物認可2023年3月1日発行（毎月1回1日発行） 第61巻3号



特集

東日本大震災12年　東北からの発信

――原発撤去の進展、津波被災地の再生を願って

詩　木村孝夫　前田新　菅原健三郎　鈴野未央　ほか

エッセイ　齋藤貢　佐々木洋一　照井良平　斗沢テルオ　ほか

特集　東日本大震災12年　東北からの発信

詩

齋藤貢　新しい恐怖　4　木村孝夫　十二の節目の中で　5
前田新　福島核災十二年目の春　6　小林真代　山　7　あべ和かこ　暖かな光　8
二階堂晃子　怪しい　9　みうらひろこ　明日への物語　10
わたなべえいこ　防潮堤が遮る　11　岩田武昭　かさぶた　12　呉屋比呂志　水没　13
平山千春　コラージュ of Memory　28　横澤和司　静寂の通りに　鎮魂の海は　29
菅原健三郎　閑上の新しい風景　30　佐藤洋子　星になれない光が小聲を零していく　31
千田基嗣　封印を解く　かのような　32　小熊昭広　通り過ぎる　33
鈴野未央　詩二篇　34　本堂裕美子　こたえのない質問　35　松崎みき子　りんご畑　36
妹背たかし　いま　やらねば　37

エッセイ

原子力災害伝承館の「語り」について　広重隆樹　14
神話ではない世界の未来のために　星隆雄　16
「関係住民」として通い続ける——東京から福島へ　根本敦子　18
震災と原発事故　齋藤貢　20　被災地と未災地の狭間で　斗沢テルオ　38
被災地の三陸を訪ねる　照井良平　40
故郷に甦り、鎮められる魂——丹野文夫についての断章　竹内英典　42
宮城県南三陸町からの記憶と現在　佐々木洋一　44
学ぶこと、出会うこと——震災と原発事故について学ぶ高校生たちの旅　津田幸介　54
「核のゴミ」処分場の事故責任「不在」のカラクリ　滝本正雄　59

詩人会議と私

佐川亜紀　芝憲子　90　白根厚子　鈴木太郎　91　清野裕子　瀬野とし　92

詩人会議グループ詩誌作品集6誌　選　秋村宏

鈴木ノリ子　ありがとう　83　大嶋和子　鉛筆が持てない　85　比嘉名進　想えば…一九四三年　86
望月昭一　馬鈴薯を植える　88　藤原睦明　たいふうがきたひ　88

詩

志田昌教　続く原発再稼働　64　大久保せつ子　身一つで　65
梅津弘子　「ふくかな」の仲間と共に　66　春街七草　無主地　67
川澄敬子　ちぢらんかんぷんぷーん　68　三浦千賀子　月子さん　69
上岡ひとみ　おじさんと私と子猫　70　いいむらすず　約束　71　清水マサ　友よ　72
松村惠子　顔　73　白根厚子　初心者　74　水崎野里子　梨泰院で死んだあなたへ　75
山田よう　ツクバエクスプレス　76　松田研之　無題　77

書評

佐々木洋一　永山絹枝『児童詩教育者　詩人江口季好』　93　後藤光治詩集『記憶の杜』　93
ひうちいし　清水マサ　澤田章子　大西はな　清水真理　94　見る・聞く・歩く　玄原冬子　53

長谷川節子小詩集　春を待つ花とふるさと／戦争と家族／疎開先の家　岩手で／肺結核は家系か／母親と子どもたち／出会いと旅立ちのふるさと　78

連載

四季連載　詩の見える風景・五度目の春——「詩人会議」創刊号の記憶　杉谷昭人　96
詩作案内　わたしの好きな詩　池井昌樹　上手宰　98　私の推す一篇　２０２３年２月号　119
詩作入門　自然、虫、小動物、その美しさに　いだ・むつつぎ　100

現代詩時評　壁詩「オモニのうた」—ウトロを生きる、ウトロで出あう—　北村真　102
詩集評　「花降る朝に予鈴が聞こえる」　北島理恵子　104
詩誌評　ペンは他人の一言で走ることもある　黒鉄太郎　106
グループ詩誌評　あのころも　今日も　書くぞ　河合政信　108

投稿

自由のひろば　選・南浜伊作／坂田トヨ子／中村明美　110
有原悠二／坂田敬子／小林友子／村口宣史／加澄ひろし／三村あきら／植田文隆／乾茂雄／坂井傑

詩人会議通信　120　読者会報告　２月号　小田涼子　125
●表紙／扉カット／表紙のことば　富田憲二　128　編集手帳　128

かさぶた

岩田 武昭

日本の膝小僧に
かさぶたができている
原発事故でできたかさぶたを
フクシマと呼んでいる

日本はかさぶたの残る足で
東京オリンピックを走りきった
膝をつけば血が出る恐れもあったのに

世界中から届いた支援への感謝と
復興しつつある被災地の姿を
世界に伝える復興五輪だったはずが
コロナ禍克服の証に塗り替え
無観客開催で世界の眼を

かさぶたからそらした

そして次は東欧戦禍で
エネルギー問題を煽り
原発再稼動を狙っている
再発防止はできているから
フクシマがかさぶたになるまでと
なってからの苦難は繰り返さない

信じたいけど信じきれないのは
かさぶたの残る足で
東京オリンピックを走ったから
それにこれから廃炉までの三十年間
その痒いかさぶたを
掻きむしらないでいられる保証なんて
どこにもないから

立ち入り禁止のかさぶたは
少しずつ小さくなってはいるが
顔を出した傷跡に産毛は生えない

詩誌『詩人会議』頒価 840 円。お求めになりたい方は事務局までお問い合わせください。

https://shijinkaigi.net

詩人会議事務局
sijin-kaigi@tokyo.email.ne.jp

詩誌『詩人会議』(https://shijinkaigi.net/category/shijinkaigi/)

1963 年 1 月創刊。1 度の休みもなく発行され、2022 年 9 月号で 720 号を超えました。内容は、詩、エッセイ、海外詩紹介ほか多彩です。作品はいまの時代の人びとの暮らしと心を描いた詩が多く、幅のひろいリアリズムの流れをつくっています。

詩誌『詩人会議』　頒価８４０円

連絡先　詩人会議事務局
〒 170-0004
東京都豊島区北大塚 2-18-3-202
TEL03-5980-6961
FAX03-5980-6962